

J A 自己改革推進レポートについて

令和6年7月26日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取中央の取り組み

①倉吉西瓜選果場に最新システム導入

J A 鳥取中央は5月9日、倉吉市の倉吉西瓜選果場で、より高精度の外観判定や重量測定、空洞検査装置を搭載した新たな選果機の竣工式を開催した。高精度選果機器の導入で、今まで以上に高品質の信頼性を高め、販売単価の向上が期待される。竣工式では、テープカットなどで祝福した。新選果機は6月上旬から稼働を開始している。



同選果場での選果機の更新は12年ぶり。今回は6つの選果工程を刷新した。外観判定では、これまでよりも解像度の高いカメラになり、台数も1台増の7台を設置。重量測定には、より高速で計測できる性能のものに変更した。今回から重量、内部品質、空洞検査の結果を総合的に判定して等級を決定するため、より安定した品質のスイカが消費者に供給される。

総事業費は7億7,550万円で、国の産地生産基盤パワーアップ事業を活用。同J Aの上本組合長は「生産基盤拡大を確信している」と話し、同J A倉吉西瓜生産部会の岸本健志部会長は「新しい選果機を120%活用し、生産者の収入、活力につなげていきたい」と力を込めた。

倉吉西瓜生産部会は、今年度5,812tの出荷で14億5,000万円の販売を計画している。

②みのり保育園の園児がジャンボかぼちゃの定植に挑戦

J A 鳥取中央は5月23日、倉吉市のJ A直売所「旬鮮プラザ満菜館」で、みのり保育園の園児とジャンボかぼちゃの定植を行った。満菜館では、以前から近隣の園児たちと、農作業体験を通じて食農教育の推進を行っている。



今回参加したのは4～5歳の園児14人。ジャンボかぼちゃの定植は今回初めての取り組みで、園児たちは楽しそうに、敷地内の一面に4本定植した。8月末から9月中旬には、園児たちと収穫を行い、満菜館主催のジャンボかぼちゃコンテストに出品する予定。

ジャンボかぼちゃの定植を体験した園児は、「楽しかった。大きくなってくれたら嬉しい」と

話した。満菜館の佐々木啓店長は「お店として生産者と地域の交流ができてよかった」と話した。

以上